

未来へ紡げ 療養所の思い

～現状を知り、将来のあり方を考える市民集会～

◀ 主 催 ▶

ハンセン病療養所の将来構想をすすめる会

全国ハンセン病療養所入所者協議会

ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会

ハンセン病違憲国賠訴訟全国弁護団連絡会

全日本国立医療労働組合

ハンセン病市民学会・支援する市民の会

◀ 日 時 ▶

2013年12月19日(木)

開場 17:30

18:00～20:00

◀ 場 所 ▶

日本青年館ホテル 3階国際ホール

全療協は、1951年に全国組織を結成し、「差別一掃と人権回復」の悲願を達成する運動を開始して62年の長い歳月が経過しました。

しかし、それでも未だ多くの課題を残し「人間回復」を目指す運動はなお道半ばであることを実感しており、解放される日は遠くなるばかりです。近年、政府が強行している合理化政策のあおりを食って、療養所を支える職員定数が毎年削減され医療、看護、介護の質的低下が著しく、生存権が現実には脅かされています。

2009年、2010年には衆・参本会議において全会一致をもって採択された「国立ハンセン病療養所における療養体制の充実に関する決議」は、国権の最高機関の決議であり、これをあたかも軽視するかの如き行政府の姿勢はきびしく糾弾されなければなりません。

いまや、全療協は高齢と体力低下ですべてが崖っぷちであり、今年の運動の結果如何によって、私たちの長年の「人間回復」のたたかいの評価が最終的に問われることになります。

療養所の実態をあらためて市民集会で浮き彫りにし、いのちを賭けた最後のたたかいに市民各位のご理解とご支援を得られるか否かが運動の成否を分けると確信しています。社会の中で孤立した運動は、何の成果ももたらさないことを、私たちは運動の経験から学んできました。昨年に続いて開催される市民集会が意義あるものになるよう心から願っています。

全療協会長 神 美知宏

● プログラム

1 プロローグ

映像

「多磨全生園・花さき保育園」と「菊池恵楓園・かえでの森こども園」の子ども達

2 今、国がなすべきこと

坂口 力 元厚生労働大臣、難病治療研究振興財団理事長
国際医療福祉大学特任教授

3 基調報告

神 美知宏 全国ハンセン病療養所入所者協議会会長

4 療養所の看護と介護の現状

時岡 裕美子 国立ハンセン病療養所邑久光明園看護部長

5 来賓のあいさつと紹介

6 ハンセン病問題にかかわった人たちからのメッセージ

紹介 司会者

7 回復者の「思い」を未来に紡ぐ企画

塔 和子さんの詩が伝える「命」の尊さ：宮崎信恵 映画監督

8 今後にむけて

徳田 靖之 ハンセン病違憲国賠訴訟全国弁護士連絡会

9 閉会のことば

豎山 勲 ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会事務局長

司会 大槻 倫子

ハンセン病違憲国賠訴訟全国弁護士連絡会